



【脳卒中って どんな病気？】



脳卒中とは、脳の血管が詰まったり破れたりすることによって脳が障害されてしまう病気です。血管が詰まり、脳に酸素や栄養が十分にいきわたらなくなり、脳が障害を受けてしまう脳梗塞、脳の中を走る細い血管が破れて脳の中に出血する脳出血、脳の周りを走る太い血管が破れて出血するくも膜下出血などに大別されます。

脳には様々な機能がありますが、脳卒中がおきて脳が障害を受けると、その部位が司っていた機能が失われてしまいます。結果として手足の麻痺や言語障害が生じたり、脳の損傷が高度である場合には死に至ることもあります。

脳卒中になって最初の2週間は命を救うための治療が中心となりますが、状態が落ち着いてくると、その後の治療は再発の予防とリハビリテーションが中心になります。リハビリテーションによって種々の障害が回復していきますが、脳には十分な再生能力が備わっていないため、残念ながら回復には限界もあり、後遺症を抱えて生活することになる患者さんも少なくありません。そのため、様々な支援を活用しながら、病気と共存していかねばなりません。また、家族の方々も、介護のことや負担軽減の制度などを学び、皆で脳卒中を乗り越えていかなければなりません。



【心臓病って どんな病気？】



心臓病とは、心臓の構造や働きの異常により生じる病気です。食生活の欧米化や人口の高齢化により、心臓病は増加しています。心臓病には、心臓自身を養う冠動脈の異常で起こる虚血性心疾患、心臓の筋肉に異常がある心筋症、血液の逆流を防止する弁に異常がある弁膜症、拍動リズムに異常がある不整脈、生まれた時から心臓に異常がある先天性心疾患などがあります。また、心臓は全身に血液を送る役割をしていますが、その機能が悪くなり血液を十分に送ることができない状態を心不全と呼びます。

心臓病になると、胸の痛みやどろき、息切れ、めまい、顔や足のむくみ、疲れやすいといった症状が出ます。また、短い時間で急に呼吸が苦しくなったり、危険な不整脈が生じたりすると突然死を起こすことがあります。

心臓病の治療は、くすりで心臓の機能を整えたり、手術やカテーテル治療で心臓の構造を修復したり、植込み型の医療機器で心臓の機能を補助したりすることで、症状の改善や突然死の予防を図ります。また、再発予防には、禁煙、減塩、水分制限、適度な運動など生活習慣の改善が必要です。一方、心不全は徐々に悪くなる病気なので、生活の質の維持や改善を目指した緩和ケアや終末期治療については、終末期に至る前から患者さんと家族の希望を医療者と共有することが望まれています。



【ご相談 したいことは ありませんか？】



治療・予防について



後遺症について



仕事のことに



薬剤について



経済的なこと
について



リハビリについて



介護について



食事療法について

